



学科の新設を迎えて

東海大学の関根嘉香先生からバトンを引き継ぎました静岡県立大学環境科学研究所の三宅祐一と申します。関根先生には、環境系の他学会で大変お世話になっておりますが、分析化学討論会への出席や日本分析化学会への貢献がほとんどない（ほぼ幽霊会員である）私に、エッセイ執筆のご依頼があり少々驚きました。しかし、会員皆様への貴重な情報発信の機会ですので、お引き受けいたしました。

「ぶんせき」誌へは初めての寄稿ですので、簡単な自己紹介をさせていただきます。私は、横浜国立大学工学部および大学院において、浦野紘平先生の指導の下、燃焼イオンクロマト法を用いたダイオキシン類の迅速分析・評価方法に関する研究を行いました。ポスドクとして(独)産業技術総合研究所に勤務し、ダイオキシン類の特定計量証明事業者認定制度（MLAP）の関連業務やフッ素系界面活性剤の環境汚染に関する研究を行い、その後、横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センターで、化学物質のリスク評価に関する研究に携わりました。現所属では大気環境や廃棄物分野を中心とした化学物質管理の研究を進めております。

さて、前置きが長くなりましたが、現所属である静岡県立大学環境科学研究所が大きな節目を迎えております。この原稿が皆様に届く平成26年4月には環境科学研究所が閉所となり、食品栄養科学部の環境生命科学科へと生まれ変わることが決定しております。健康長寿社会の構築へ向けた食と人の健康に関わる環境を科学すること、および1学年定員20名に対しほぼ同数の教員で教育を行うという少人数教育などを特長とした学科です。現在までは基本的に大学院生のみを教育してきましたが、新たに学部学生への教育が加わることとなり、当然のことながら大きな意識の変化および教育技術の充実が求められております。また、高校生や高校の先生などへの新学科の説明会などでは、新学科卒業時の出口（就職先）について質問が集中します。本学大学院の就職実績を示すことで、ある程度は納得して頂けるのですが、さらなる就職へのサポートが必要であろうということになりました。そこで、就職サポートの一環として、就職活動時に武器となりそうな国家資格の取得をサポートする科目をカリキュラムに組み込むこと、さらにその国家資格を教員自身が取得することとなりました。

私の関連分野では、環境計量士がその候補となり、私

にも環境計量士（濃度関係）の取得の勧め（指示？）があり、人生で初めての国家資格の取得に挑みました。環境計量士の詳細については、「ぶんせき」2012年2月号に記載がありましたので割愛させていただきますが、「環境計量に関する基礎知識」や「化学分析論及び濃度の計算」では、幅広い大学レベルの基礎化学と分析化学などの知識が求められます。こちらは、埃まみれだった大学時代の教科書を紐解き、十数年前を懐かしみ、そして楽しみながら勉強することができました。一方、「計量関係法規」では計量法の全般から出題され、頭の柔軟性がなくなりつつある私には難関だったのですが、(独)産業技術総合研究所においてMLAPの関連業務に従事していたことが非常に役立ちました（当時の関係者各位に感謝申し上げます）。幸運にも試験にはなんとか合格することができましたが、学部学生にとっては若干ハードルが高いことを身をもって体感することができました。しかし、難関であるからこそ、就職活動時に武器になるはずですので、新たに入學してくる学生の状況を考慮しながら適切なサポートができればと思っていますところ。

話は変わりますが、この原稿を執筆している現在（12月中旬）、アメリカのAlbany（ニューヨーク州）にあるWadsworth Center（New York State Department of Health）での3ヶ月間の海外研修が終わり、帰国の準備をしているところです。滞在先はKurunthachalam Kannan教授の研究室で、化学物質の分析方法の開発、化学物質の環境中動態解析、食品などからの化学物質の曝露やその影響評価など、幅広い研究活動を行っている研究室です。来年度から食品栄養科学部に移籍することもあり、次の研究展開に関する様々なヒントを頂くことができ、充実した日々を過ごすことができました。ただ一点だけ、11月中旬から日中でも氷点下となり始め、12月中旬には -10°C を下回る日や数十cmほどの積雪が度々あり、温暖な静岡で生まれ育ち、現在静岡で生活する私には、この寒さはかなり堪えました。

さて、次の執筆者ですが、埼玉県環境科学国際センターの堀井勇一さんをお願いいたしました。堀井勇一さんとは、私が(独)産業技術総合研究所のポスドクだったときに、机を並べて一緒にお仕事をさせて頂き、今でも共同研究をさせて頂いております。お忙しい時期にもかかわらずご快諾頂きありがとうございます。

〔静岡県立大学 三宅祐一〕